平成 28 年度

とかち広域消防事務組合 一般会計歳入歳出決算審査意見書

とかち広域消防事務組合監査委員

十消監査第14号 平成29年10月25日

とかち広域消防事務組合 組合長 米 沢 則 寿 様

> とかち広域消防事務組合 監査委員 林 伸 英 監査委員 佐 藤 和 也

平成28年度とかち広域消防事務組合一般会計歳入歳出決算の審査意見について

地方自治法第233条第2項の規定により審査に付された平成28年度とかち広域消防事務 組合一般会計歳入歳出決算を審査したので、別紙のとおり意見を提出します。

目 次

第1	審査の対象	1
第2	審査の期間	1
第3	審査の基本	1
第4	審査の結果	1
(決	算の概要及び意見)	
1	決算収支の概要	2
2	予算の執行状況	2
(1) 歳入歳出決算の状況	2
	ア 歳入	2
	イ 歳出	2
(2) 消防費及び消防施設費の予算執行状況	3
	ア 消防費	3
	イ 消防施設費	4
(3) 予算対比増減の状況	5
	ア 歳入	5
	イ 歳出	5
(4) 前年度対比増減の状況	5
·	ア 歳入	5
	イ 歳出	6
(5)性質別歳出の状況	6
	6) 分担金分賦の状況	7
3		7
	1) 債務負担行為	_
		7
	2)組合債	(
4	財産の状況 ····································	8
(1) 公有財産の状況	8
	ア 土地及び建物	8
	イ 工作物	8
(2) 物品の状況	8
5	意見	8
(参	考資料)	
1		10
_	火災等出動件数・救急出動・消防指令の状況 ····································	11

平成28年度とかち広域消防事務組合一般会計決算審査意見

第1 審査の対象

平成28年度 とかち広域消防事務組合一般会計歳入歳出決算

第2 審査の期間

平成29年8月28日から平成29年10月19日まで

第3 審査の基本

決算審査に当たっては、審査に付された一般会計歳入歳出決算書(以下、「決算書」という。)並びに歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書 (以下、「決算附属書類」という。)について、

- 1 予算執行・財務処理の適法性、妥当性
- 2 計数の正確性
- 3 財政運営の健全性
- の確認を基本とし、審査の重点を次の事項におきました。
- (1) 予算執行状況
- (2) 分賦金の正確性の確認
- (3) 財産の異動及び増減の確認
- (4) 決算書及び決算附属書類の法令準拠並びに計数の確認

第4 審査の結果

1 平成28年度決算書並びに決算附属書類は、関係法令に準拠して調製され、表示された 計数は関係帳簿等と照合等の結果、適正であると認められました。

また、予算の執行については、別に実施した定期監査等において既に報告のとおり、 全体を通して適正に執行されているものと認められました。

- 2 現金預金については、地方自治法第235条の2第1項に定める例月現金出納検査において報告のとおり、その残高を確認しました。
- 3 一般会計決算の概要及び意見については、次のとおりであります。

(注)

- 1 文中に用いる金額は、原則として各計数値ごとに千円単位で表示し、単位未満は四捨五 入している。このため、総数とその内訳の合計等が符合しない場合がある。
- 2 文中の比率は、原則として小数点第1位で表示(単位未満は四捨五入)し、「0.0」と表示したものは、該当値はあるが単位未満のもの、「一」と表示したものは、該当値がないものである。

決算の概要及び意見

1 決算収支の概要

平成28年度における一般会計の決算額は、歳入6,062,712千円に対し、歳出は5,978,292 千円で、形式収支は84,420千円となり、実質収支についても同額の黒字となった。

(単位:千円)

区分会計	歳 入 A	歳 出 B	差 引 額 (形式収支) C=A-B	翌 年 度 繰越財源 D	実 質 収 支 C-D
一般会計	6,062,712	5,978,292	84,420	0	84,420
合 計	6,062,712	5,978,292	84,420	0	84,420

2 予算の執行状況

(1) 歳入歳出決算の状況

ア 歳入

歳入決算状況は、予算現額 6,062,186 千円に対し、収入済額 (決算額) は、6,062,712 千円で、執行率は100.0%となった。

また、不納欠損額及び収入未済額は生じていなかった。

なお、歳入科目別決算状況は、次表のとおりである。

(単位:千円・%)

	_	区分	予算現額	決算額	増△減額	執行率
科目			A	В	B - A	$B/A \times 100$
分担:	金及び負	担金	5,726,932	5,726,932	0	100.0
使用:	料及び手	数料	4,845	4,636	\triangle 209	95.7
繰	越	金	6,427	6,438	11	100.2
諸	収	入	101,882	102,606	724	100.7
組	合	債	222,100	222,100	0	100.0
合		計	6,062,186	6,062,712	526	100.0

イ 歳出

歳出決算状況は、予算現額 6,062,186 千円に対し、支出済額 (決算額) は、5,978,292 千円で、執行率は 98.6% となり、83,894 千円の不用額が生じた。

なお、各会計の歳出科目別決算状況は、次表のとおりである。

		区分	予算現額	決算額	不用額	執行率
科目			A	В	A - B	$B/A \times 100$
議	会	費	896	863	33	96.3
総	務	費	28,158	25,834	2,324	91.7
消	防	費	482,934	453,697	29,237	93.9
消	防 施	設 費	374,584	372,698	1,886	99.5
公	債	費	1	0	1	0.0
職	員	費	5,139,758	5,091,488	48,270	99.1
旧消	防組合	清 算 費	33,855	33,712	143	99.6
予	備	費	2,000	0	2,000	0.0
合		計	6,062,186	5,978,292	83,894	98.6

(2) 消防費及び消防施設費の予算執行状況

ア消防費

予算執行の主な内容は、帯広消防署費 94,521 千円、音更消防署費 42,892 千円及び 幕別消防署費 31,462 千円であった。

予算執行の内容を節・細節別に見ると、主なものはいずれも需用費で、消耗品費71,292 千円、燃料費62,474 千円及び光熱水費53,667 千円であった。

また、予算現額に対する執行率は93.9%で、29,237 千円の不用額が生じた。 なお、科目ごとの予算執行状況は、次表のとおりである。

科目	予算現額	支出済額	執行率	翌年度 繰越額	不用額
	A	В	B/A×100	C	А-В-С
消防局費	4,600	4, 234	92. 0	0	366
指令センター費	27, 749	25, 760	92.8	0	1, 989
带広消防署費	100, 867	94, 521	93. 7	0	6, 346
音更消防署費	44, 656	42, 892	96. 0	0	1, 764
士幌消防署費	21, 092	19, 686	93. 3	0	1, 406
上士幌消防署費	13, 344	11, 145	83. 5	0	2, 199
鹿追消防署費	13, 088	12, 449	95. 1	0	639
新得消防署費	15, 676	14, 819	94. 5	0	857
清水消防署費	24, 354	22, 261	91. 4	0	2, 093
芽室消防署費	31, 700	30, 516	96. 3	0	1, 184
中札内消防署費	10, 586	10, 058	95. 0	0	528
更別消防署費	13, 232	12, 701	96. 0	0	531
大樹消防署費	14, 305	13, 205	92. 3	0	1, 100
広尾消防署費	22, 942	22, 453	97. 9	0	489
幕別消防署費	32, 201	31, 462	97. 7	0	739
池田消防署費	16, 495	14, 309	86. 7	0	2, 186
豊頃消防署費	12, 656	11, 922	94. 2	0	734
本別消防署費	9, 693	9, 296	95. 9	0	397
足寄消防署費	21, 590	19, 445	90. 1	0	2, 145
陸別消防署費	13, 385	12, 437	92. 9	0	948
浦幌消防署費	18, 723	18, 126	96.8	0	597
合 計	482, 934	453, 697	93. 9	0	29, 237

イ 消防施設費

予算執行の主な内容は、帯広消防施設費 88,324 千円、大樹消防施設費 78,802 千円 及び音更消防施設費 64,485 千円であった。

主な整備内容は、帯広消防施設費の水槽付消防ポンプ自動車及び高規格救急自動車86,076千円、大樹消防施設費の水槽付消防ポンプ自動車78,624千円、音更消防施設費の災害対応特殊化学消防ポンプ自動車62,331千円、清水消防施設費の小型動力ポンプ付水槽車47,952千円及び広尾消防施設費の耐震性貯水槽21,708千円であった。

また、予算現額に対する執行率は99.5%で、1,886千円の不用額が生じた。なお、科目ごとの予算執行状況及び主な整備内容は、次表のとおりである。

科目	予算現額	支出済額	執行率	翌年度 繰越額	不用額	 主な整備内容
	A	В	B/A×100	裸越領 C	A-B-C	
指令センター消防施設費	9, 688	9, 688	100.0	0	(0 衛星携帯電話
帯広消防施設費	88, 526	88, 324	99.8	0	202	2 水槽付消防ポンプ自動車及び 高規格救急自動車
音更消防施設費	64, 651	64, 485	99. 7	0	160	6 災害対応特殊化学消防ポンプ自動車
士幌消防施設費	2, 080	1, 938	93. 2	0	142	2
上士幌消防施設費	4, 693	4,650	99. 1	0	43	3
鹿追消防施設費	194	66	34.0	0	128	8
新得消防施設費	769	416	54. 1	0	353	3
清水消防施設費	51, 969	51, 966	100.0	0		3 小型動力ポンプ付水槽車
芽室消防施設費	4, 890	4, 890	100.0	0	(0
更別消防施設費	2, 233	2, 232	100.0	0		1
大樹消防施設費	78, 804	78, 802	100.0	0	4	2 水槽付消防ポンプ自動車
広尾消防施設費	23, 416	23, 349	99. 7	0	67	7 耐震性貯水槽
幕別消防施設費	8, 660	8,620	99. 5	0	40	0 消火栓取替工事負担金
池田消防施設費	8, 271	8, 262	99. 9	0	Ç	9 広報車
豊頃消防施設費	15, 456	15, 196	98.3	0	260	0 広報車及び防火水槽
本別消防施設費	292	278	95. 2	0	14	4
足寄消防施設費	1, 692	1, 398	82. 6	0	294	4
陸別消防施設費	6, 714	6, 702	99.8	0	12	2 指揮車
浦幌消防施設費	1, 586	1, 436	90. 5	0	150	0
合 計	374, 584	372, 698	99. 5	0	1, 886	6

(3) 予算対比増減の状況

ア歳入

予算執行の結果、予算額に対して百万円以上の増減が生じたものはなかった。

イ 歳出

予算執行の結果、予算額に対して5百万円以上の増減が生じたものは、次表のとおりである。

(単位:千円)

科 目 (款及び目)	予算額 A	決算額 B	増△減額 B−A	主な増△減理由
消防費 帯広消防署費	100,867	94,521	△ 6,346	節減による燃料費及び光熱水費 の減
職員費 職員給与費	5,139,758	5,091,488	△ 48,270	職員の年齢構成の変動による減

また、予算額に対して百万円以上の増加となったものはなく、減少したものは 12 件で 73,000 千円であった。

なお、百万円以上の増減が生じたものの年度別対比は、次表のとおりである。

<百万円以上の増減が生じたものの件数及び金額>

(単位:件・千円)

				年度	平	平成28年度			平成27年度			増△減		
区分			_		件数	金	額	件数	金	額	件数	金	額	
予	算	対	比	増	0		0	0		0	0		0	
予	算	対	比	減	12		73,000	1		5,203	11		67,797	

(4) 前年度対比増減の状況

ア歳入

歳入決算額は 6,062,712 千円で、前年度と比較して 5,949,984 千円、5,278.2%増加 した。

これは主として、とかち広域消防局の運用開始に伴い、分担金及び負担金が 5,614,207 千円増加したことによるものである。

なお、歳入科目別前年度対比増減状況は、次表のとおりである。

	_	年度	平成28年度	平成27年度	増△減額	増△減率
科目			A	В	C = A - B	$C/B \times 100$
分担?	金及び負	担金	5,726,932	112,725	5,614,207	4,980.4
使用料及び手数料		4,636	_	4,636	皆増	
繰	越	金	6,438	_	6,438	皆増
諸	収	入	102,606	3	102,603	3,420,100.0
組	合	債	222,100		222,100	皆増
合		計	6,062,712	112,728	5,949,984	5,278.2

イ 歳出

歳出決算額は 5,978,292 千円で、前年度と比較して 5,872,002 千円、5,524.5%増加 した。

これは主として、とかち広域消防局の運用開始に伴い、職員費が 5,091,488 千円増加したことによるものである。

なお、歳出科目別前年度対比増減状況は、次表のとおりである。

(単位:千円・%)

	年度		平成28年度	平成27年度	増△減額	増△減率	
科目		<u> </u>		A	В	C = A - B	$C/B \times 100$
議	会		費	863	1,190	\triangle 327	\triangle 27.5
総	矜	į	費	25,834	48,028	\triangle 22,194	\triangle 46.2
消	防	i	費	453,697	57,072	396,625	695.0
消	防施	設	費	372,698	_	372,698	皆増
職	員	Ĺ	費	5,091,488	_	5,091,488	皆増
旧刹	旧消防組合清算費		33,712		33,712	皆増	
合			計	5,978,292	106,290	5,872,002	5,524.5

(5) 性質別歳出の状況

義務的経費(人件費、扶助費)は3,562,765千円で、前年度と比較して3,557,515千円、67,762.2%増加した。

これは主として、人件費が前年度と比較して 3,509,785 千円、66,853.0%増加したことによるものである。

義務的経費以外では、補助費等は1,602,341 千円で、前年度と比較して1,561,712 千円、3,843.8%、物件費は457,235 千円で、前年度と比較して396,824 千円、656.9% それぞれ増加した。

なお、性質別経費の前年度対比状況は、次表のとおりである。.

区分	平成 28	年 度	平成 27	年 度	対前年度	増△減
区 刀	決算額	構成比	決算額	構成比	金 額	率
義務的経費	3,562,765	59.6	5,250	5.0	3,557,515	67,762.2
人件費	3,515,035	58.8	5,250	5.0	3,509,785	66,853.0
扶助費	47,730	0.8	_	_	47,730	皆増
物 件 費	457,235	7.6	60,411	56.8	396,824	656.9
維持補修費	17,852	0.3		_	17,852	皆増
補 助 費 等	1,602,341	26.8	40,629	38.2	1,561,712	3,843.8
投資的経費	338,099	5.7		_	338,099	皆増
合 計	5,978,292	100.0	106,290	100.0	5,872,002	5,524.5

(6) 分担金分賦の状況

構成市町村からの分担金は、共通経費(消防局・組合職員人件費等)が595,980千円、各消防署の個別経費(消防費、消防施設費、消防署職員人件費等)が5,130,952千円で、合わせて5,726,932千円となり、前年度112,725千円に対して5,614,207千円、4,980.4%増加した。

3 債務負担行為及び組合債の状況

(1)債務負担行為

債務負担行為は、平成 27 年度は残高がなく、平成 28 年度末残高は、31,357 千円で、 前年度と比較して皆増となった。

新規設定されたものは、35,981 千円で、この主なものは、音更消防署の清掃業務委託 18,749 千円及び帯広消防署の清掃業務委託 13,835 千円であった。

一方、解消額は4,624千円となった。

なお、債務負担行為の状況については、次表のとおりである。

(単位:千円)

年度	平 成	28 年 度	平成28年度末	対 前 年 度
区分	新 規	解 消	残 高	増 △ 減
清掃業務委託(帯広消防署)	13,83	5 0	13,835	13,835
清掃業務委託(音更消防署)	18,74	9 3,549	15,200	15,200
北海道市町村備荒資金組合(車両の譲渡代金) (音更消防署)	1,65	6 552	1,104	1,104
庁舎用電話機器賃貸借事業 (芽室消防署)	73	0 186	544	544
パソコン賃貸借事業(芽室消防署)	1,01	1 337	674	674
合計	35,98	1 4,624	31,357	31,357

(2)組合債

組合債の借入総額は、平成27年度は借入がなく、平成28年度に222,100千円を借入したことにより、前年度と比較して皆増となった。

借入の内容は、帯広消防署が水槽付消防ポンプ自動車整備事業及び高規格救急車整備事業 80,400 千円、音更消防署が災害対応特殊化学消防ポンプ自動車整備事業 59,200 千円、大樹消防署が水槽付消防ポンプ自動車整備事業 34,800 千円、清水消防署が小型動力ポンプ付水槽車整備事業 26,000 千円、広尾消防署が耐震性貯水槽整備事業 21,700 千円であった。

なお、組合債の借入状況については、次表のとおりである。

(単位:千円)

	_			年度	平	成	28	年	E J	茰	平成	28年度末	対	前年	度
区分			<u> </u>		借	フ	\	償	ĭ	景	残	高	増	\triangle	減
帯	広	消	防	署		80,	400			0		80,400			80,400
音	更	消	防	署		59,	200			0		59,200			59,200
清	水	消	防	署		26,	000			0		26,000			26,000
大	樹	消	防	署		34,	800			0		34,800			34,800
広	尾	消	防	署		21,	700			0		21,700			21,700
合				計		222,	100			0		222,100		4	222,100

4 財産の状況

(1) 公有財産の状況

ア 土地及び建物

土地については、該当がなく、建物については、消防救急デジタル無線施設がとかち広域消防局の発足に伴い、旧消防組合などから譲与されたことにより、117.07 ㎡増加した。

イ 工作物

工作物については、消防救急デジタル無線施設がとかち広域消防局の発足に伴い、 旧消防組合などから譲与されたことなどにより、平成28年度末現在高は、2,953,082 千円となった。

(2) 物品の状況

物品については、車両の更新や消防用器具の購入により、平成28年度末現在高は、前年度と比較して22台増加し、24台となった。

区分		種	類単位	単位	平成27年度末	平	平成28年度末		
	73	作里 :	規中位		現 在 高	増 加	減少	増△減	現 在 高
公	行	土	地	m²	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
有財	政 財	建	物	m²	0.00	117. 07	0.00	117. 07	117. 07
産	産	工作	物	田	0	2, 959, 432, 866	6, 350, 400	2, 953, 082, 466	2, 953, 082, 466
物		R	1	台	2	22	0	22	24

5 意見

平成28年度の一般会計決算について審査した結果、予算執行及び財務処理の適法性並びに計数の正確性は適正であると確認しました。

事業運営につきましては、平成28年4月から十勝全域を管轄する「とかち広域消防局」 の業務が開始され、消防指令センター及び消防救急デジタル無線の運用が開始されました。

8 月には、台風などに伴う大雨のため、十勝地方に甚大な被害が発生しましたが、警防本部を設置し、管内の6町に連絡員を派遣するなど、広域消防局内の連携のもと消防活動が行われました。頻発する自然災害等に当たっては、引き続き広域化のメリットを発揮され、消防力を機動的かつ効果的に活用されますことを望みます。

今後とも、十勝圏域における消防行政の円滑な運営を図るため、「十勝圏広域消防運営計画」を着実に推進されますとともに、構成市町村や消防団との連携を深められ、住民サービスの向上、消防体制の基盤の強化及び財政負担の軽減に努められますよう期待いたします。

参 考 資 料

1 分担金分賦状況調

(単位:千円)

					(単位:千円)
市町村		区分	共通経費	個別経費	各市町村 分担金合計
帯	広	市	275,821	1,345,482	1,621,303
音	更	町	56,990	445,932	502,922
士	幌	町	13,516	171,866	185,382
上	士 幌	町	12,272	155,411	167,683
鹿	追	町	12,658	142,153	154,811
新	得	町	14,098	162,517	176,615
清	水	町	17,862	321,647	339,509
芽	室	町	27,901	260,287	288,188
中	札 内	村	10,783	123,521	134,304
更	別	村	10,014	136,402	146,416
大	樹	町	12,872	203,472	216,344
広	尾	町	15,369	213,101	228,470
幕	別	町	37,564	474,992	512,556
池	田	町	15,027	162,612	177,639
豊	頃	町	10,229	157,484	167,713
本	別	町	15,537	166,515	182,052
足	寄	町	14,987	198,095	213,082
陸	別	町	9,180	133,872	143,052
浦	幌	町	13,300	155,591	168,891
合		計	595,980	5,130,952	5,726,932
7 - W mm 1					

【説明】

- ・共通経費の主なものは、消防局の職員費及び指令センター費である。
- ・指令センター費は、消防デジタル無線及び指令センター整備費を人口等による負担割合により算出している。
- ・個別経費は、消防署の職員費及び各消防署が執行する消防署費、消防施設費等の経費である。

2 火災等出動件数・救急出動・消防指令の状況

(単位・件・人)

			[N. A. III Z	140 337 .115 35	(単位:件・人)
市町村(沙(大田)	区分	火 災 等 出動件数		・搬送状況	消防指令件数 (発生市町村)
田町 利(併 <u>的者</u>)		山助件剱	出動件数	搬送人数	(先生川町刊)
帯	広	市	415	6,996	6,291	5,716
音	更	町	91	1,427	1,325	1,210
士	幌	町	11	261	245	204
上	士	幌 町	28	235	225	187
鹿	追	町	14	185	177	150
新	得	町	37	245	242	223
清	水	町	97	333	326	348
芽	室	町	52	685	658	547
中	札	内 村	14	186	174	139
更	別	村	16	108	104	102
大	樹	町	26	231	227	197
広	尾	町	91	306	291	302
幕	別	町	60	1,120	1,056	877
池	田	町	22	341	321	275
豊	頃	町	15	141	133	124
本	別	町	16	413	397	324
足	寄	町	29	383	377	319
陸	別	町	13	135	131	115
浦	幌	町	30	186	179	186
管	外	出 動		_		6
合		計	1,077	13,917	12,879	11,551

[※]火災等出動件数、救急出動・搬送件数は、「平成28年版消防年報」の数値によるため、平成28年1月1日から平成28年12月31日(消防指令件数は平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)の数値である。

[※]消防指令件数のうち、市町村を超えた指令件数は、平成28年4月1日から平成28年12月31日までで390件である。